

「エルサレムの使徒会議 2」

2016年06月24日

使徒言行録 15章 6節～11節。そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」

パウロたちの宣教によって、異邦人たちが主イエスの福音を信じ、聖霊に与った。福音は民族の壁を超えた喜びであることを体験した。ところが、エルサレム教会から下って来たユダヤ教的クリスチャンたちが、モーセの律法を守り割礼を受けなければ、完全な救いに至らないと説き、ユダヤ教の枠内に閉じ込めようとし、戒律からの解放を喜んだ異邦人クリスチャンたちを困惑させた。パウロたちは、この事態を憂慮し、自分たちの宣教が無意味になるのではないかと恐れ、福音理解の一致を得たいと、エルサレム教会に上った。

異邦人宣教を体験したパウロたち一行とエルサレム教会の使徒たちが一堂に会した「エルサレムの使徒会議」が行われた。長老たちも集まり、協議が始まった。パウロたちは異邦人が福音を受け入れた宣教の事実を披歴した。一方、ファリサイ派からクリスチャンになった人たちは「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と頑強に主張した。喧々諤々の議論であった。

双方の主張が出尽くした頃、ペトロが立ち上がって「兄弟たち」と呼びかけた。ペトロは福音を信じ、従う、感動的な説教を語っている。まず 神はあなた方の間で、私をお選びになったが、それは、異邦人が私の口から福音を聞いて信じるようになるためであったと語り始めている。使徒言行録 8章に、フィリポのサマリア伝道が実を結んだことを伝え聞いたペトロはサマリアに行き、彼らに手を置くと聖霊が降ったことを体験している。サマリア人は元来同族であったが、異邦人同様の扱いを受けていた。また、10章には、ローマの百人隊長コルネリウスがペトロの説教を聞いて、一族が信仰に入り、聖霊の賜物が注がれた。ペトロ自身が、民族間に存在した「浄、不浄」の価値観を乗り越え、異邦人伝道をしている。人の心の全てをお見通しになる神は、ユダヤ人に与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明された。神は信仰によって罪を赦し、ユダヤ人と異邦人を差別されない。先祖も私たちも負いきれなかった律法の軛を、異邦人の首に懸けて、彼らを苦しめるようなことをしてはならない。ペトロは、律法を守り割礼を受けるユダヤ教の教理、伝統に関わりなく、神の一方的な恵みによって救われるのであり、この恵みはユダヤ人にも異邦にも同じように与えられていると力説している。主イエスの福音は人間が何かをしたかではなく、所与の恵みであって、それが、民族差別を取り壊し、共にあることを促し、可能にするのである。ペトロの説教は圧倒的な説得力をもって、会議を支配した。